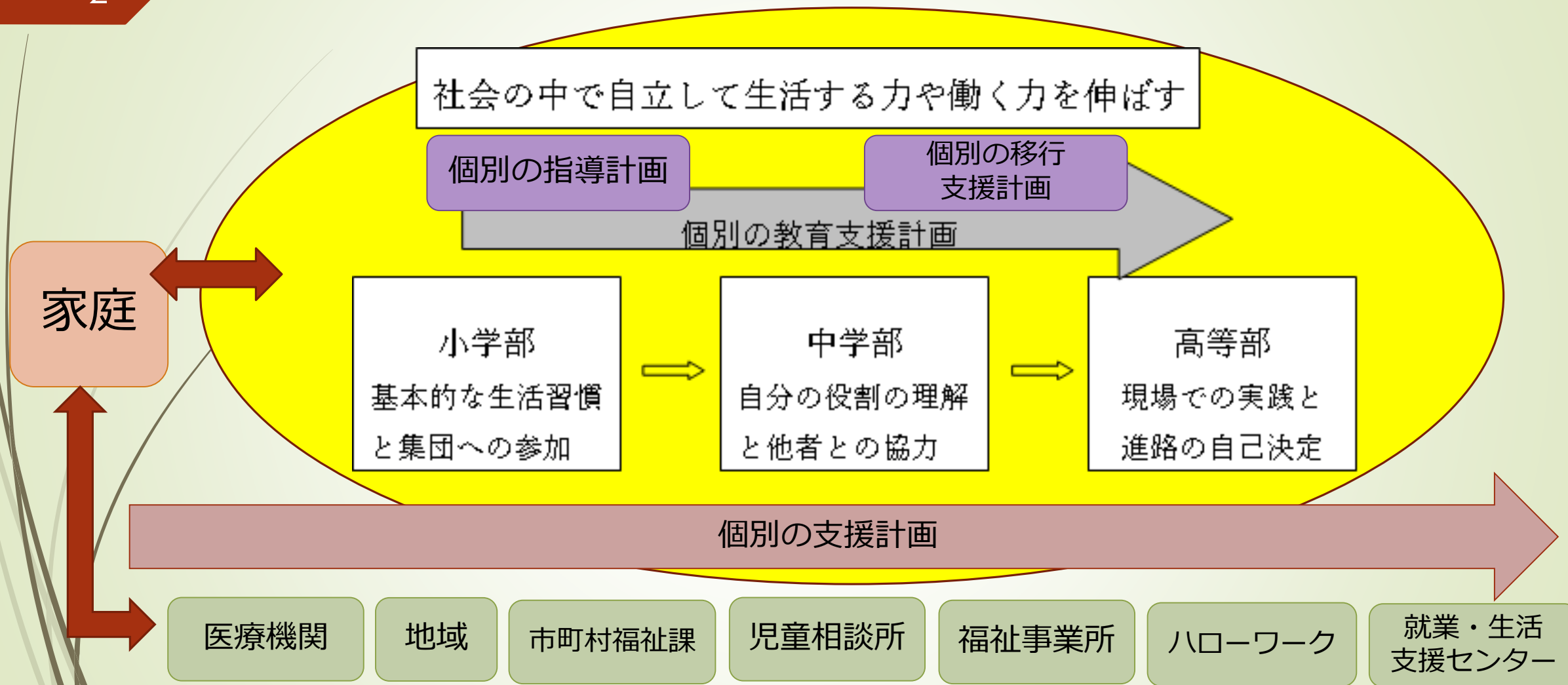


キャリア教育優良教育委員会、 学校及びPTA団体等 文部科学大臣表 受賞 資料

1

福島県立会津支援学校

進路指導のイメージ



キャリア教育の視点（全学部意識化）

3

- ・ 働くことと生きることにつながるような学習活動。
（知識・技能）
- ・ 取り組みに対して自分で意味づけを行いながら役割を果たすことができる活動。（思考力・判断力・表現力）
- ・ 学ぶ意欲を大切にし、子どもが主体的にできる授業。
（学びに向かう力・人間性）

育成すべき資質・能力の3つの柱につながる

将来の生活の基礎となる能力の段階的な習得

① 小学部（一例です）

- ・ 自分なりの方法で、挨拶したり、気持ち等を伝えたりする。
- ・ 基本的な生活習慣を身に付ける。
（睡眠、着替え、食事、衛生面）
- ・ ルールや決まりがあることを知る。おおよその活動に見通しをもつ。
- ・ 困ったときには身近な人に助けを求める。
- ・ 自分の好きなことややりたいことを選ぶ。

将来の生活の基礎となる能力の段階的な習得

② 中学部（一例です）

- ・ 周囲の人に自分から気持ちを伝えたり、場に応じた挨拶をしたりする。
- ・ 自分の役割を果たしながら、友達と協力して集団で活動する。
- ・ 嫌なことがあったときの対処方法や、自分に合った余暇活動を知る。
- ・ 一定時間、集中して取り組む。
- ・ 課題を成し遂げることで達成感を味わう。

将来の生活の基礎となる能力の段階的な習得

③ 高等部（一例です）

- ・ 周囲の人の気持ちを考えて行動する。
- ・ 嫌なことがあっても自分に合った方法で対処したり、適切に余暇を過ごしたりし、心身共にリフレッシュする。
- ・ 社会のルールやマナーを守る。社会の様々な情報やサービスを知る。
- ・ 自分で解決できるかどうかを判断し、適切な人に相談する。
- ・ 卒業後の生活について具体的なプランを立てるとともに、希望進路実現に向けて目標をもって取り組む。

①授業「作業学習」

本校高等部の作業学習グループ（7グループ）

- ・ クリーン班（清掃活動、ビルメンテナンスクリーニング）
- ・ 喫茶・サービス班（喫茶サービス、箸袋折り等外注作業）
- ・ 陶芸班（カップ、器等窯業製品製作）
- ・ 木工班（木製椅子、フラワーポット等木製製品製作）
- ・ 手工芸班（さをり折り・縫製製品製作）
- ・ リサイクル班（カレンダー、のし袋等紙すきによる紙工製品作り、ペットボトルリサイクル）
- ・ 農芸班（各種野菜、落花生などの栽培、収穫、選別作業）

①授業「作業学習」

喫茶サービス班



8

農芸班



クリーン班



①授業「作業学習」

リサイクル班



9



手工芸班



①授業「作業学習」

木工班



10



陶芸班



①授業「作業学習」

作業学習での取り組み

- 生徒たちの意識改革（反省や評価表の工夫）
 - 作業開始前の取り組む内容や担当工程等の十分な確認
 - 取り組みの様子や製品の出来等に対する称賛の機会の確保
- 環境整備、補助具の作成
- 一人一人に応じた作業内容の検討（作業種の変更も）
 - 自己選択・自己決定できる場面も提供

②地域との連携「作業学習」



12

アビリンピック



特別支援学校作業技能大会



②地域との連携「作業学習」

福島県特別支援学校技能大会とアビリンピックへの参加

- 喫茶接遇（サービス班）
- ビルクリーニング（ビルクリーニング班）
- データ入力（パソコン部、情報の授業の履修者中心に）
- オフィスアシスタント（サービス班）

→外部の評価を受けることで、大きな自信につながります

（令和2年度アビリンピックふくしま喫茶接遇部門金賞受賞）

②地域との連携「作業学習」

作業班による地域との連携・共同学習

地域、企業、学校が連携する取り組み。

14

- ・ 喫茶サービス班の喫茶店（A型事業所）での学習。
- ・ クリーン班の地域の清掃活動
- ・ 農芸班の落花生収穫交流

②地域との連携「作業学習」

喫茶サービス班の喫茶店（A型事業所） での学習（昨年度と今年度は中止）

- ①活動場所・・・近隣の就労継続支援A事業所
- ②活動の内容・・・喫茶サービス
- ③効果・・・現場で働くことで、喫茶接客技術が向上する。客の反応が直接評価となり、わかりやすい。自己評価と店舗側からの評価を比較することで自分の課題を見つけることができる。改善・評価のサイクルができ、自ら考え解決していく力が增える。

②地域との連携「作業学習」

喫茶サービス班の喫茶店（A型事業所）での学習 （写真は過去の物になります）

16



②地域との連携「作業学習」

クリーン班の地域の清掃活動

- ①活動場所・・・近隣の駅、自然の家、地域の相談支援センター
- ②活動の内容・・・清掃（廊下、床、ガラス、ロッカーなど）
- ③効果・・・外部の評価や客観的な評価を直接受ける機会が増える。自分たちの活動について振り返る指標にすることができる。社会の一員として貢献できる喜びを味わうことができる。

②地域との連携 「作業学習」

クリーン班の地域の清掃活動 (写真は過去の物になります)

18



②地域との連携「作業学習」

農芸班の落花生栽培交流（昨年度と今年度は中止）

- ①交流主体・・・本校高等部農芸班、隣接する幼稚園、会津若松市の食育ネットワーク、落花生工場を行う企業
- ② 交流の内容・・・落花生の種植と収穫
- ③ 効果・・・企業より様々な技術指導を受けることができる。地域との触れ合いによって、社会参加の意識が高まる。自分が必要とされる存在であることや、現在自分たちが学習していることの意味を再認識することができる。

②地域との連携 「作業学習」

農芸班の落花生栽培交流 (写真は過去の物になります)

20



③職業

職業の時間での取り組み

- 自己理解や他者理解の学習
- ソーシャルスキルトレーニングを通して人間関係作りの基礎作り
- 様々な職業についての理解向上
- 作業練習を通して集中力、正確さや指示に従う力を養う
- キャリアノートの活用
(考えていること、思っていること、学んだことや自分の成長を記録する。自分を見つめ直し、将来の夢や目標を見つけ、実現のための計画を立てたり実際に行動したりすることを目指す。)

④産業現場等における実習と校内実習

年間のスケジュールと実施学年

全3回

I 期 . . . 6月：全学年対象
(1年生は校内実習のみ)

II 期 . . . 9月：3学年対象

III 期 . . . 11月：全学年対象

特別実習 . . . 1月：3学年対象

(事業所との調整によって期間の変更もある)

④産業現場等における実習と校内実習

校内実習

始めて実習を行う1年生中心に行っている。
外部に出ない2・3年生も参加する。

23

作業内容

- ・ 100円均一ショップ 水切り袋の製品化
- ・ 100円均一ショップ おしぼりの製品化
- ・ 割り箸入れ

④産業現場等における実習と校内実習

校内実習の様子

24



④産業現場等における実習と校内実習

25

第Ⅲ期産業現場等における実習場所について（R2年度）

- ➡ 対象生徒は第1・第2・第3学年 78名（全生徒数84名）
- ➡ 1年生：生活介護3名、B型12名、一般企業8名
計23名
- ➡ 2年生：生活介護8名、B型8名、A型2名、一般企業12名
アセスメント2名 計32名
- ➡ 3年生：生活介護3名、B型9名、一般企業11名、
計23名
- ➡ （実習場所：生活介護7、B型17、A型2、一般企業31）

④産業現場等における実習と校内実習

26

第Ⅰ期産業現場等における実習場所について（R3年度）

- ➡ 対象生徒は第2・第3学年 57名（全生徒数61名）
- ➡ 2年生：生活介護5名、B型12名、A型1名、一般企業9名
アセスメント1名 計28名
- ➡ 3年生：生活介護5名、B型11名、A型1名、一般企業10名
アセスメント2名 計29名
- ➡ （実習場所：生活介護5、B型13、A型1、一般企業19）

④産業現場等における実習と校内実習

27

現場実習の様子



⑤地域との連携の強化

進路指導

- 生徒自身や保護者が主体となった進路指導
- 保護者向け進路セミナー、進路学習会、進路相談会の実施
- ハローワーク、障害者生活・就業支援センター、相談支援専門員との連携
- 校内連携強化（地域支援センターあいつ、生徒指導部）

⑤地域との連携の強化

29

事業所の話を聞く会 年2回実施

ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、
就労継続支援A型・B型事業所など2グループで実施



⑤地域との連携の強化

30

先輩の話を聞く会 令和2年度の様子

平成29年度卒業生 ヤマト運輸（株）勤務



⑤地域との連携の強化

31

リモート会議システムを活用した 就職面接会・説明会への参加 (令和2年度の様子)

新型コロナウイルス感染症予防対応のため合同面接会が中止となり、ハローワーク会津がリモートマッチングコーナーを設置した。校外へ移動することなく参加でき、2年生も会社説明を聞くことができた。



⑤地域との連携の強化

会津地区雇用連絡協議会

- 企業が中心となり組織し、学校での取り組みや障がい者への理解を広げる取り組み。
- 「障害者の社会参加と自立を援助する」という目的で、平成6年発足。
- 企業、サービス事業所や入所施設、職業安定所、社会福祉事務所、児童相談所、学校関係、会津地区各市町村役場等の約90団体が加入。

→今年度は技能大会や学校の見学の代わりに、総会の中で生徒による実習報告会、喫茶サービス班によるコーヒー提供、中学部・高等部作業製品展示を行った。

⑤地域との連携の強化

会津地区雇用連絡協議会 令和3年度総会の様子

33



成果

- ◆ 働く意義や働くために必要な力、様々な職業や大まかな職業分類についての理解が進んできた。
- ◆ 生徒自身が仕事に対する適性を感じ、進路先や希望を実現するために将来必要な力や身に付けるために今できることは何かをより具体的に考えることができるようになってきた。

自分にできることや将来の自立について見つめ直し、
一般就労にチャレンジする生徒の増加。

過去5年間の卒業生進路状況 (人)

卒業年度	H28	H29	H30	R1	R2
一般就労	12	19	13	9	12
進学		1			
就労移行		1	1	1	
就労A	1			3	
就労B	11	17	9	11	8
自立訓練					
生活介護	3	7	4	4	3
在宅					
その他		1	1	1	
計	27	46	28	29	23

過去5年間の会津支援学校一般企業等への就職率（全国・福島県との比較）

卒業年度	H28	H29	H30	R1	R2
一般就労	12	19	13	9	12
計	27	46	28	29	23
就労率	44.44%	41.30%	46.43%	31.03%	52.17%
全国平均	30.1%	31.2%	32.3%	31.7%	—
本県平均	20.1%	23.6%	25.4%	28.5%	26.1%